



香川県三豊市  
中西 幸載さん

【プロフィール】  
実家を継ぐため1999年に会社を退職し就農。当初は施設トマト栽培に携わっていたが、その後、水稲、ブロッコリーの栽培に転向。現在、水稲(3ha)、麦(6ha)、ブロッコリー(0.8ha)を作付。

菌核病の発生を抑止。  
汚れも無く、  
使い勝手の良さも  
満足です。



三豊地区の苗生産と生産者への供給を行う三豊広域育苗センター。JA香川県はこのような育苗センターを12施設有する。

ブロッコリーの苗が品種ごとにびっしりと並ぶ育苗センターの内部。

### 全国トップクラスの産地を形成したJAの支援体制

栄養価が高く、食卓の彩に欠かせないブロッコリー。2000年以降、全国的に増産が進む中、県下全域でブロッコリー栽培が拡大した香川県は、全国トップクラスの作付面積と生産量を誇ります。香川県のブロッコリーは主に水田の裏作として栽培され、早生、中早生、晩生などの様々な品種を使い分け、多様な作型を組み合わせることにより、11月～6月に渡る長期出荷を実現しています。

香川県野菜花き生産者研究会ブロッコリー部会の副会長を務める中西幸載さんは、生産拡大の背景には「JA香川が行う三つの支援体制がある」と話します。「苗を育て、生産者に供給する“育苗支援”。定植作業を受託し、生産者の負担を減らす“作業支援”。収穫したブロッコリーの荷造調整を行う“荷造り調整支援”。この三つの支援体制により生産者は栽培に専念でき、面積拡大を後押ししています」。

野菜花き生産者研究会の重要な役割の一つに、中西さんは「新しい品種の選定と導入」を挙げます。「私たちの会では毎年新しい品種を積極的に試しています。理想は栽培技術の有無にかかわらず、誰が作ってもきれいなドーム型になって、病気に強い品種ですね(笑)。天候や気温などの環境条件が毎年変化中、この先も安定供給ができるように、品種や技術の検討は常に行わなくてはいけないと思っています」。



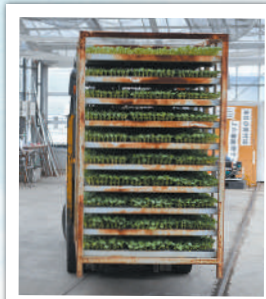
### 菌核病の被害抑止につながったアフェットフロアブル

県を代表するブロッコリー産地の三豊地区で、中西さんは就農5年目の2004年からブロッコリー栽培に携わっています。「始めた頃は畝立てに骨を折りました。当時は一輪テラー。雨が続き土が重いときは紐を付けて引っ張ったりと、色々が無茶もしました。6年ほど前に整形機を導入してからは楽になりましたね」と笑います。また、栽培当初は病害にも悩まされたそうです。「菌核病には本当に困りました。ひどいときは病気に弱い品種の畑が全滅してしまったこともありました」。大きな被害を受けた菌核病ですが、「アフェットフロアブルがその後の被害防止に役立った」と振り返ります。「アフェットは菌核病の防除剤として厩に採用され、農協に勧められたことがきっかけで使用しました。それからは、確実に病気が減りましたね」とその効果を実感。さらにメリットとして「使い勝手の良さ」を指摘します。「それまで使用していた薬剤は株元に薬液が溜まると汚れが出ていましたが、アフェットは汚れも付きません。また春出荷

のブロッコリーは数日で大きく成長するので、いつでも収穫できるようにしなくてははいけません。その点、アフェットは収穫前日まで使えるので安心できます。現在、三豊地区ではアフェットフロアブルが定植後のローテーション防除の中で使用されるほか、育苗時期の病害防除でも地域の育苗センターで使われています。

### 評価を支える努力と工夫

市場から高い評価を得ている香川県のブロッコリー。その理由について「品質保持のための工夫と努力」と中西さんは言います。「香川県では朝穫りが基本で、中には日付が変わった時間からヘッドライトを付けて行く人もいます。箱詰めの際は一緒に氷を詰めて出荷しますが、これも鮮度を保つために先輩方が試行錯誤して編み出した独自の方法です」。市場に出向いた際、「香川県産は大きくて棚持ちが良い」という声をよくいただくそうですが、「うれしさと同時に気が引き締まります」と話す中西さん。「小さい県でここまで来れたのは大したものだと思います。それも農協さんと生産者が一体となった努力のたまものです。今後も品質を高めて、安定供給を果たしていきたいです」。



取材時の9月上旬はブロッコリー苗の出荷のピーク。大量の苗がリフトで繰り返し運ばれる。



### 中西さんのアフェット®フロアブルの使い方

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽培ステージ		収穫					苗はJAの育苗センターで育てられ、生産者に供給される		定植			収穫
病害発生時期			菌核病 黒すす病								菌核病 黒すす病	

アフェット®フロアブル  
散布時期

ローテーション散布の中でアフェットフロアブルを使用。  
(早生種、中生種では3～4回、晩生種では5～6回ほど病害防除を実施)

#### (産地情報)

香川県の西部に位置する三豊市。瀬戸内の温暖な気候に恵まれ、水稲やブロッコリー、レタス、ネギなどの野菜のほか、ぶどうや桃などの果樹栽培も盛んです。